

ファクトシート：パキスタンのタウンサ堰改修事業

2006年11月28日

「環境・持続社会」研究センター（JACSES）田辺有輝

1. プロジェクト概要



タウンサ堰の様子

パキスタン中央部を流れるインダス川にある老朽化したタウンサ堰（1958年完成）の決壊を防ぎ、周辺地域の水資源を確保するために、堰、水門、付帯設備の修復を行うプロジェクト。総工費1億5000万ドルのうち、世界銀行が1億2300万ドルを融資している（2004年9月に融資決定）。また、外務省は、この水門改修に必要な機材整備購入のために、51億6500万円を無償資金援助として拠出（2005年4月30日に交換公文調印）¹。水門の基本設計調査をJICAが実施した。実施主体は Punjab 州灌漑・電力局。

2. プロジェクトの問題点

プロジェクト現地では、以下の環境・社会問題が発生している²。

（1）立ち退きが実施前に移転計画書が作成されなかった

環境影響評価（EIA）報告書³では、深刻な環境・社会影響が起こらないと結論付け、カテゴリ-Bに分類されている。EIAでは「工事に必要な十分な土地があり、住民の立ち退きは必要ない」と書かれているが、実際にはパキスタン政府によって立ち退きが実施された。なお、移転計画書は、立ち退きが行われて問題が発覚した後、2005年11月29日に作成され、同計画書によれば、立ち退き者数は157世帯、799人となっている⁴。

（2）立ち退き住民への補償が不適切である

住民によると、立ち退きの補償金として、インダス川左岸の Basti Sheikhan 村では、一件あたり4万パキスタンルピー、右岸の Basti Allah Wali 村では、一件あたり1万5千パキスタンルピーが支払われているとのこと。移転計画書では家の広さやタイプによって補償額が異なるとされているが、政府はこの内容を無視している。

¹ 外務省プレスリリース（http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/17/r1s_0430a.html）2005年4月30日

² これらの問題点は、現地住民・NGOとのメールによる情報交換、及び現地での聞き取り調査（2006年9月）によって得られたものである。

³ World Bank, Environmental Impact Assessment for Taunsa Barrage Rehabilitation and Modernization, September 15, 2004

⁴ Resettlement Action Plan, Taunsa Barrage Emergency Rehabilitation & Modernization Project, November 29, 2005

(3) 代替地の住民の生活水準が維持 / 向上されていない

住民が移転した代替地では、以下のような問題が見られる。

- ・ **衛生環境**：住民が移転させられた代替地の排水設計が不適切で、雨季には庭が浸水してしまう。汚れた水が滞留してしまうために病気も蔓延している。庭を嵩上げするための土を受け取った住民もいるものの、25世帯がまだ受け取っていない。
- ・ **ジェンダー**：壁の建設が補償に含まれていない。住民は、ぼろ布や簾（むしろ）を壁の代替として使っているが、プライバシーの保護は十分な状態ではない。特に女性のプライバシー保護がなされていないことは深刻である。
- ・ **騒音・振動**：世界銀行のChange Management Statementでは、夜間の工事は行わないとされているが、実際には夜間も行われており、住民は騒音や振動に悩まされている。
- ・ **安全確保**：電力局の規則では、高圧電線の鉄塔の周りには家を建設してはならないことになっているが、実際には鉄塔の周りに建設されている。

(4) 警察及び工事関係者による脅し・嫌がらせが行われた

2005年11月、灌漑・電力局及び警察が、移転した住民宅に深夜（午前1時～2時ごろ）に訪れ、補償金を受け取るために警察署へ来るよう脅しを行った。その後、元プンジャブ州知事のおい（本プロジェクトの工事請負会社で勤務）が住民宅に深夜12時ごろに訪問し、世界銀行に対して、警察が脅しを行ったことを話さないよう再度口封じの脅しを行った。さらに、2006年8月5日夜、工事車両の運転手が「村内ではライトを消してほしい」との住民の要望を無視。数分後、運転手は15人のライフルを持った警備員と共に戻ってきて、「工事を邪魔すると撃つぞ」と脅しをかけた。この騒ぎで警備員1人が負傷し、村民2人が逮捕された。

(5) タウンサ堰下流東側の広大な農地が侵食された

堰修復のための囲い（coffer dam）の建設によって、流域が変化。場所によっては2～3kmも侵食が進行した。このため、タウンサ堰下流東側のPul Chandia、Bait Qaim Wala、Loon Wala、Parhar Ghairbi等の村々の住民は農地、家屋、井戸、鳥小屋、養殖場、果樹園等を失った。侵食によって移転者も発生しているが、失った土地・家屋等への補償はされていない。

(6) Taunsa Panjnad Link Canal及びMuzaffargarh Canal周辺における農地の浸水害が進行した

工事に伴い、左岸の灌漑用水路（Taunsa Panjnad Link Canal及びMuzaffargarh Canal）に限界量まで水を流しているため、Kacha Patal、Khai Soom、Khai Doom、Pakha Patal等の村々では、農地の浸水害が進行した。農作物の根が腐ってしまう被害が拡大し、生活苦による移転も発生しているが、救済措置は行われず、補償も払われていない。

(7) D.G. Khan Canal周辺における大規模な飲料水・農業用水の枯渇が発生した

工事に伴い、右岸の灌漑用水路（D.G. Khan Canal）への送水を事前通告なく半年間停止したため、用水路の下流数十キロに渡って、飲料水、農業用水が不足。農作物への被害、病気の蔓延、生活苦による移転が生じたが、救済措置も行われず、補償も払われていない。

添付資料1：プロジェクト現地の写真（撮影：田辺有輝）



排水網が整備されておらず衛生環境は悪い



壁の代わりにぼろ布を代用しているが、プライバシーは十分に確保されていない



高圧鉄塔の周辺にも家屋が建てられている



工事に伴い、広大な農地が侵食された



農地の浸水害によって根が腐ってしまった作物



灌漑水路の停止によって飲料水が枯渇、池から水を汲んでいるが衛生環境は非常に悪い